



山田 春一  
(「桑園食楽」発起人)

石塚 祐江  
(桑園交流ネットワーク事務局長)

遊佐 高大  
(桑園元気マップ編集長)

金内 芳雄  
(桑園交流ネットワーク 代表)

山内 睦夫  
(桑園地区連合町内会 会長)

工藤 英明  
(ミニ大通お散歩まつり実行委員会委員長)

## 大きな求心力となった「ミニ大通お散歩まつり」

**石塚**：桑園交流ネットワークは 2011 年 2 月に組織化されたわけですが、先行して立ち上がっていたプロジェクトの一つが、ミニ大通プロジェクトでした。ミニ大通界限には素敵なお店がたくさんあるから、何かお祭りをして、多くの人に知ってもらおうという意見が出たんですよ。

**工藤**：それに賛同した人たちで、急遽ミニ大通お散歩まつり実行委員会を作って、具体的なことを話し合っていました。地域の人が発信して、地域の人が参加するという方向性に、桑園地区の企業の方々や連合町内会も賛同してくれて。

**遊佐**：僕も工藤さんに声をかけられて、ミニ大通お散歩まつりに協力して。それがきっかけで、交流ネットワークのことも知ったんですよ。

**石塚**：今では、実行委員会が桑園交流ネットワークの枠を超えて、大きな広がりになっていますね。

**工藤**：今年 9 月に開催した第二回では、近隣のマンションにお住まいの方も参加してくれるようになってきたと思います。今年はちびっこゾーンもあって、子どもたちの参加が多かった。高校生や障がいを持った方々も参加してくれて。その場にいる人たちが「祭りを盛り上げたい」という意識で参加してくれていると感じました。



## 自分たちのまちを、てづくりする。

2009年12月。数名の呼びかけによって、幅広い世代、業種の人たちが集まる「桑園交流ネットワーク」が誕生した。ここから生まれたアイデアは、連合町内会の協力を得ながら、地域の企業も巻き込むミニ大通お散歩まつりに発展。いろいろな人が交流することで、どんどんふくらむ「自分たちのまち」への想いとは。

**石塚**：そもそもの始まりは、2009年のエコカフェマイカップ(NPO法人環境り・ふれんず運営)のオープンですよね。いろいろな活動をしている人たちがエコカフェに集まるようになって、この人たちがつながったら、きっと面白いことができるんじゃないかと思って、誕生したのが桑園交流ネットワークでした。

**金内**：私の本業は繊維の卸ですが、この地区を活性化す

るお手伝いができるなら、と思って参加した一人。桑園地区は繊維の卸のまちとして発展してきた歴史があるけど、繊維卸会社はだんだん数が減っていて。桑園のまちとしての顔が見えなくなりつつあることを、懸念していました。

**山内**：私も繊維の卸に携わる者として、金内さんと同じことを案じていました。マンションの建設により新しく転入される方が増える中、桑園連合町内会でも運動会や文化祭、盆踊り、ウォークラリーといった気軽に参加できる行事を数多く実施し、地域内の交流を促進してきました。桑園交流ネットワークの活動も目指している方向は変わらないと思いますので、連合町内会でも、できる範囲で支援をしているところです。



札幌市立大学の学生による樹名板を作成するワークショップには、たくさん子どもたちが参加。その他、フリーマーケットや読み聞かせ、無料健康セミナーなども催され、多くの人が秋の一日を楽しんだ。



## 新たなコミュニティやプロジェクトの登場

**山田**：僕は、北5条通り沿いで「うぶすな」という飲食店を営業して5年経ちますが、最初の3年は隣近所と全く接点なくて。でも年々飲食店の経営が厳しくなる中で、何か手を打たないとだめだなと。それで、近隣のお店に声をかけて「北5条通食べ歩きMAP」を2010年に制作したんです。ただ、マップってあくまで単発の動き。地域の飲食店を継続的に盛り上げる取り組みも必要なので、今年の4月に、仮想商店街「桑園食楽」という飲食店のコミュニティを立ち上げました。



桑園食楽とカゴメ（株）北海道支店との共催で、10/30（日）に開催されたハロウィン&収穫祭。会場では食楽契約農場の新鮮野菜が販売され、その野菜を使用したトマト鍋が振る舞われた。

遊佐さんとは「北5条通食べ歩きMAP」がきっかけで知り合って、桑園交流ネットワークのことを教えてもらって。今年3月に震災が起きたとき、パワーオブフレンドという実行委員会を作って開催したチャリティイベントも、桑園交流ネットワークでいろいろな人と知り合ったから実現したこと。一年前だったら、とても考えられなかった展開です。



6月にJRA札幌競馬場特設会場で、7月に市立札幌大通高校で開催。写真は7月開催時の様子。飲食ブースやフラダンス、吹奏楽、カポエイラ、よさこいなど充実のプログラムで、多くの寄付金が集まった。

**石塚**：「北5条通食べ歩きMAP」の他にも飲食店のマップは作られていて、防災マップや子育て支援マップなど、単発で制作されたマップはあったのよね。それから全ての要素を凝縮した、マップがあったらいいねって話している。「桑園交流ネットワークとしてのマップ作りで、地域住民のお役に立つ仕事をしたい」という金内さんの提案もあって、桑園元気マップ制作チームが立ち上がったのです。

**遊佐**：この地区に新しく来た人も古くから住んでいる人も、桑園の魅力を再発見してもらえるようなものにしたいですね。気軽に持ち歩けるサイズにして、3月には発行できればいいなと思っています。

## 自分たちのまちづくりの、これから

**工藤**：ミニ大通お散歩まつりに関しては、新しい人たちの考えで変えていっていいと思っています。将来的には、こ



のお祭りとはまた別の、桑園地区を元気にするものが出てくるといいですね。

**遊佐**：円山のような感じで、「桑園」をブランド化していければいいな。あと、僕は桑園交流ネットワークを通していろいろな人と知り合うことができたので、



このつながりは大事にしていきたいです。

**山内**：つながり作りという視点に立つと、桑園交流ネットワークも連合町内会の活動に積極的に参加、連携していただきたいと思います。町内会はあるのがあたり前のように見えますが、地道な活動を通じて地域の基盤となる役割を果たしています。ネットワークが町内会と連携することで、より地域のことを深く理解し、地域に密着した活動ができると思います。

**金内**：新しく桑園に住み始めた方々は、30代から40代の若い世代も多く、従来の町内会員とのジェネレーション・ギャップは当然起きています。桑園交流ネットワークの活動も、全ての町内会に情報が行き渡っていないのが現状です。町内会の皆さんに対してどんな働きかけをして、これからの協力関係を築いていける



かが、私たちに問われていると思いますね。

**石塚**：桑園交流ネットワークのメーリングリストでは、町内会の行事等の情報も流すようになっていますが、ぐるっと桑園ウォークラリーや文化祭に参加されている方は、まだまだ少ないです。古くからあるコミュニティと新しくできたコミュニティと、両方をうまく組み合わせ、出会う場が広がっていくといいですね。

**山田**：僕、最近パークゴルフにはまっていて、お友達が年配の方ばかりなんですけど（笑）。世代が違っても、一つのことを一緒にやると仲良くなれる。「桑園食楽」みたいな飲食店の活動もあり、町内会としての活動もあり、桑園交流ネットワークの活動もあり。その中で、若い人も年配の方も一緒に取り組むことのできる活動があるといいなと思います。これから、うまいこと力を合わせる部分を作っていきたいですね。

※本座談会に関するお問い合わせは、桑園まちづくりセンター（011-621-3405）までお願いします。

エコカフェマイカップ  うぶすな 